

～JICA研修員が田辺市の防災対策施設を視察～

南海トラフに備えた津波避難タワー、稲むらの火の館を視察

今後30年間で70～80%の確率で発生すると予想されている南海トラフ地震。南海トラフ地震による津波被害が予想される和歌山県田辺市では、市内各所に津波避難タワーを建設、また津波浸水想定区域を可視化したマップを作成し平時より住民と共に避難訓練を実施するなど、ソフト・ハード両面での津波対策を行っています。

現在、実施中のJICA研修「インフラ（河川・道路・港湾）における災害対策」では、開発途上国においてインフラ防災に携わるエンジニアが日本の防災対策技術を学んでおり、田辺市の津波避難タワーの視察や、避難ルート視察し、母国の防災対策技術の発展に役立てます。また「稲むらの火の館」を訪れ、過去の災害の経験を後世に伝えることの重要性を学びます。

以下の日程で、研修を実施しますので、研修員へのインタビューと取材を是非ご検討ください。

参加研修員：5か国5名（加えて1名オブザーバー参加あり：スリランカ）

（参加国：バングラデシュ、インドネシア、ガイアナ、ケニア、ミャンマー）

日程：

11月28日（木） 10：45～11：15 芳養（はや）地区津波避難タワー見学（2019年3月完成）

11：30～12：00 南海大地震（昭和南海地震）津波潮位標見学（紀伊新庄駅）、避難ドリル（バス移動）

14：00～15：15 津波防災教育センター「稲むらの火の館」見学

※本講義・視察は和歌山県田辺市様にご協力を頂いております。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

－ご取材いただける場合は事前にご連絡ください。－

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 業務第一課 宇陀 文香

TEL 078-261-0386 e-mail : Uda.Ayaka.2@jica.go.jp